

参考 答申案（資料7）の構成

前文 方法書の概要等

- ・ 幅を持った対象事業実施区域
- ・ 具体的な調査地域等の記載なし
- ・ 多数の保全対象
- ・ 施設存在・供用、工事実施、掘削発生土により著しい環境影響が想定

1 全般的事項

(1) 事業の具体化、環境影響評価

- ア 準備書までに適切に具体化、経緯等の明示
- イ 掘削発生土等も明確に具体化
- ウ 具体化踏まえた手法選定、理由等の明示
- エ 影響の回避・低減を考慮した具体化・措置検討
- オ 複数案の調査等、比較検討
- カ 地域特性の把握、考慮
- キ 調査等の手法の見直し
- ク 専門家・関係機関等へのヒアリング

(2) 手続

- ア 丁寧な説明、手続の周知、広く情報提供
- イ 住民・市町意見の勘案
- ウ 分かりやすく丁寧な準備書の記載

3 個別事項

(1) 大気質

- ア 工事方法・地域特性踏まえた調査等、影響の回避・低減
- イ 現状からの変化の明示、考慮
- ウ 通年測定

(2) 騒音、振動、微気圧波、低周波音

- ア 工事方法・地域特性踏まえた調査等、影響の回避・低減
- イ 鉄道施設等・供用方法・地域特性踏まえた調査等、影響の回避・低減
- ウ 現状からの変化の明示、考慮
- エ 換気施設での列車走行音の考慮
- オ 発破の衝撃音等の調査等
- カ 駅・車両基地の騒音等の調査等

(3) 水質、地下水、水資源

- ア 井戸等の把握、重要な生息地等の考慮
- イ 地質・水文シミュレーション等による予測
- ウ 気候変動含む長期的な視点で調査計画
- エ 地下水の詳細検討での留意事項
 - (1) 地域ごとの解析方法、対象範囲、精度等の明示
 - (2) 組み込むべき項目
 - (3) 地質構造の把握
 - (4) 京都市内の地下構造物設置事例の活用
- オ 予測踏まえた影響の回避・低減、モニタリング等の検討
- カ 濁水・排水による影響の調査等、影響の回避・低減
- キ 降雨災害時の影響の把握、保全措置検討

(4) 地形及び地質

- ア 重要な地形・地質への影響の回避・低減
- イ 活断層への対応

(5) 地盤

- ア 専門家助言を踏まえた地盤沈下の調査等

(6) 土壌

- ア 掘削土壌の事前調査
- イ 基準不適合土壌の保管・処理方法等の検討、明示

(7) 日照障害、電波障害

- ア 地域の状況に応じた調査等

(8) 文化財

- ア 分布状況の把握、適切な記載
- イ 施設存在・工事等による影響の予測、影響の回避・低減
- ウ 協議踏まえた措置検討、発掘調査等

(9) 動物、植物、生態系

- ア 十分な調査地域の設定
- イ 生態系の適切な把握
- ウ 水循環変化に伴う影響
- エ 供用時の騒音・排気等による影響
- オ 調査圧への配慮
- カ 事業・措置への反映
- キ 掘削発生土による影響の調査等

ク 継続的なモニタリング

(10) 景観

- ア 方法書以外の景観資源等の把握
- イ 工事・施設存在による影響の調査等、影響の回避・低減

(11) 人と自然との触れ合いの活動の場

- ア 方法書以外の場の把握
- イ 工事・施設存在・供用による影響の調査等、影響の回避・低減

(12) 廃棄物等

- ア 発生量・場外搬出量・保管・運搬・処分等を定量的に予測、明示
- イ 発生量・搬出量の抑制、再利用
- ウ 他の環境要素に対する影響の調査等、影響の回避・低減

(13) 温室効果ガス

- ア 温室効果ガスの適切な予測
- イ 温室効果ガスの低減